



No.3 猫の病気編② 糖尿病

猫の
医

「猫が飼い主に知ってほしいと思っていること」No.3「猫の病気編」②は、最近増えていると言われている「猫の糖尿病」について紹介します。ワクチン接種のときの検査や、健康診断で見つかることも多い病気です。動物病院には定期的に通院し、定期的に健康診断を受けましょう。

STEP

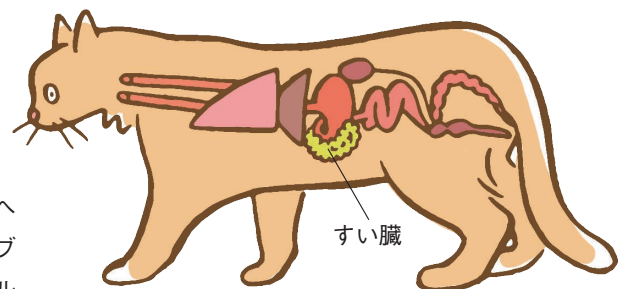


糖尿病とは

すい臓から分泌される**インスリン**の作用が不足し、血液中の高血糖が続くことでさまざまな不調が引き起こされる病気です。

インスリンとは…

すい臓で作られるホルモンの1種で、すい臓から全身へ送られます。肝臓、筋肉、脂肪などに作用して、血液中のブドウ糖をエネルギーとして利用できるようにしたり、エネルギーの貯蔵、タンパク質の合成、細胞の増殖などを促します。



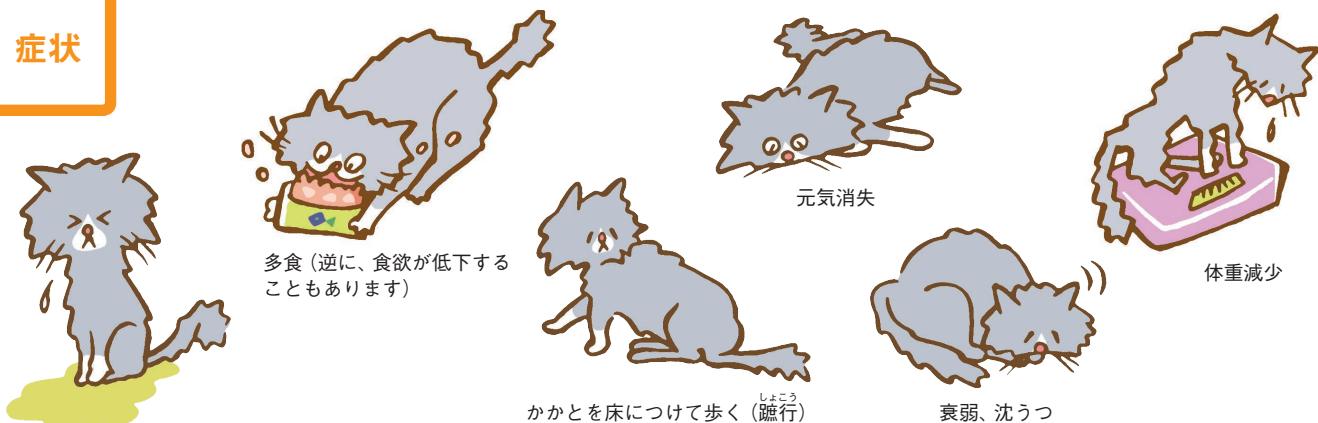
STEP



糖尿病にかかるリスクの高い猫

- 肥満：肥満の猫は、理想体重の猫の最大4倍糖尿病になりやすいと言われています
- 高齢：7歳以上の猫は、リスクが高いと言われています
- 不活発：室内飼いや不活発な猫は、リスクが高いと言われています
- 性別：雄猫や去勢猫は、リスクが高いと言われています

症状



多飲・多尿

※糖尿病の猫に、これらの症状がすべてみられるわけではありません。また、特徴的な症状が出ない猫もいます

検査

動物病院では、下記のような検査で、糖尿病かどうかを検査します

- 身体検査 ●血液検査 ●尿検査

ほかに、すい臓マーカーの測定や超音波検査などを行う場合もあります

※検査方法は、猫の状態、動物病院によって異なります。詳細は、かかりつけ獣医師に確認しましょう



治療

猫の糖尿病では、おもに以下のような治療を行います

※治療は、猫の状態、動物病院によって異なります。詳細は、かかりつけ獣医師に確認・相談しましょう

【インスリン注射】 ※詳しくは裏面を参照してください

血糖値を管理するために、獣医師の指示に従い、インスリンを注射します

インスリン注射をすることによって、
負荷のかかった猫のすい臓を、休ませてあげることができます
わからないこと、不安なことがあれば、遠慮なく獣医師に相談しましょう



【薬を飲ませる】

- 血糖降下薬

血糖降下薬には、種類によって、

- インスリンの分泌を促進する ●インスリンの分解を阻害する ●糖の吸収を遅らせる

※胆汁うっ滞（黄疸、濃い色の尿、薄い色の便、全身のかゆみなど）、低血糖、嘔吐などの副作用が出る猫もいます。注意点を動物病院でよく確認しておきましょう

※その他の薬を飲ませる必要があるときもあります

※「猫に薬を飲ませるときのコツ」は

<http://www.animalmedia.co.jp> 「猫が飼い主に知ってほしいと思っていること」から無料でダウンロードできます



【食事療法】

- 糖尿病用に成分を調整してある療法食を、獣医師の指示のもと与えます

あなたの猫に合った成分のフードを教えてください

- インスリン注射後に、猫が**低血糖**を起こすことがあります

また、糖尿病の猫は、**糖尿病性ケトアシドーシス**などの命にかかわる状態に陥ることがあります

- 震える ●ふらつき ●食欲不振/食欲がまったくない（食事を吐いてしまう）または異常な食欲
- 元気がない ●痙攣 ●失神 などを起こした場合は、**一刻も早く動物病院に連れて行きましょう**



注意点

緊急時の連絡先：

TEL：

夜間の緊急連絡先：

TEL：

- 糖尿病の猫ではとくに、ストレスによって病気が悪化することもあります。猫に適した生活環境であるか再確認し、十分でないところは改善しましょう

REFERENCES / 参考文献

ISFM Consensus Guidelines on the Practical Management of Diabetes Mellitus in Cats Journal of Feline Medicine and Surgery, 17, 235-250, 2015、日本糖尿病学会編・著「糖尿病治療ガイド2014-2015」(文光堂)



No.3 猫の病気編② 糖尿病 インスリン注射の注意点



表面に続き、猫の糖尿病と付き合いしていくうえで、とても重要となる「インスリン」を扱うときの注意点を紹介します。少しでも疑問に思うことは、かかりつけ獣医師に相談しましょう。また、説明してもらったことをMemo欄に記録しておきましょう

Lesson 1

インスリンの扱い方

インスリンは、とても繊細な薬です。熱や衝撃などを加えると成分が壊れてしまい、注射しても効果を示さなくなります

- 子どもの手の届かない場所に保管しましょう
- 汚れやすい、直射日光が当たる、温度変化の激しい場所を避けて保管しましょう

Memo 保管するときの注意点：

Lesson 2

インスリン注射の前に

インスリンの注射方法は、かかりつけ獣医師によく確認しておきましょう

Memo ちゃんのインスリン注射は 1日 回

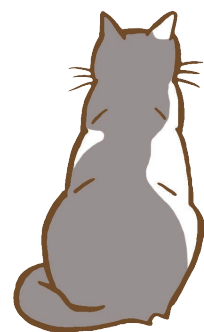
インスリンの量：毎回 U（獣医師の指示なくインスリンの量を変更してはいけません）

いつ注射を打つか：

注射を打つところ：注射部位は毎回少しずつずらします。同じところに何度も注射しないようにしましょう



横からみたところ



後ろからみたところ

インスリンの使用期限：

Lesson 3

インスリン注射の仕方

簡単な手順を示します。あなたと猫が落ち着いている状態で注射します。製剤によっては注意点が異なる場合がありますので、気を付けるべき点をかかりつけ獣医師に確認しておきましょう。また、インスリンの注射量は変わることがあります。動物病院での定期的な検診が必要です

※インスリン注射には獣医師の処方が必要です
※ペンタイプの注入器は下記と使用方法が異なりますので、処方されたときに確認しましょう

- インスリンのボトルを両手のひらに挟んでゆっくり転がします（強く振ってはいけません）。注射器は、緑矢印の部分で獣医師に指示された目盛近くになるよう内筒を引いておきます
※図は、投与量2Uの場合です
- ボトルと注射器のキャップをはずし、注射器の針をボトル蓋の円内に突き刺します。ボトルに刺したまま、注射器の内筒を元に戻します
- 針が刺さった状態で、ボトルと注射器の上下をひっくり返します
- 針が液体のなかにあることを確認したら、注射器の内筒を引っ張り、指示された用量より少し多めの目盛りに青矢印を合わせます
注射器のなかに空気が入っていたら、注射器から手を離し、人差し指の爪で注射器の筒部分を軽くはじきます
※図は、投与量2Uの場合です
- 赤矢印の位置を獣医師に指示された目盛まで戻します。
※図は、投与量2Uの場合です
- 針をボトルから引き抜き、注射部位（背中の場合は、肩甲骨の間）の皮膚をつまんで持ち上げます。このとき、くぼんだ場所（オレンジ矢印）の皮膚と筋肉の間に針が入るように刺します
- 親指と中指で注射器を挟み、同じ手の人差し指で内筒を押し込み、インスリンを注入します。これで完了！

<https://www.youtube.com/user/iCatCare>
インスリン注射の仕方、血糖値の測定方法、尿糖の測定方法などの動画が無料で閲覧できます（英語版）

インスリン用の注射針はとても細くて鋭いので、猫はほとんど痛みを感じません
慣れれば数秒で終わります。すばやく確実に注射しましょう！

確認しておきましょう

決められた時間に注射できなかったら？/注射するのを忘れてしまったら？

多すぎる/少なすぎる量を注射してしまったら？

注射後、様子がおかしくなったら？

Point

- 注射後に注射したところをもんではいけません
- 使用済注射器は、かかりつけ獣医師に返却して廃棄してもらいましょう
- 注射した日付、時間、投与量、猫の体調、便・尿の回数と状態、食事の内容と量、水を飲んだ量を記録しておくといいでしょう。また、体重測定のためにベビースケールがあると便利です。測定したら体重も記録しておきましょう
- ドラッグストアで尿糖検査紙を購入し、ときどき使ってみるのもいいでしょう（使い方はかかりつけ獣医師に聞いておきましょう）

REFERENCES / 参考図書

iCatCare <https://www.youtube.com/user/iCatCare>、日本糖尿病学会編・著「糖尿病治療ガイド2014-2015」（文光堂）、ランタス添付文書（サノフィ株）、レベミル添付文書（ノボ ノルディスク ファーマ株）